

資料

理療科で用いられる鑑別テストの原典および関連文献
—第1回 取り扱う文献データ—

濱田 淳¹⁾、阿部壮夫¹⁾、沖中美世乃¹⁾、越智崇之¹⁾、
小田切美由紀¹⁾、田嶋海斗¹⁾、前道俊宏¹⁾、渡邊 開¹⁾、
徳竹忠司¹⁾、和田恒彦¹⁾、緒方昭広¹⁾、原 早苗²⁾、
Andrei Maria Stefana³⁾

TKB-ICOPE；理学検査検討会

- 1) 筑波大学理療科教員養成施設
- 2) 筑波大学附属視覚特別支援学校鍼灸手技療法科
- 3) 筑波大学理療科教員養成施設非常勤講師

理療科教員養成施設では、隔週金曜日に「勉強会」を行っています。ここでは、臨床、研究に関する様々なイベントが盛り込まれていて、理療研修生に対する教育の重要な位置を占めています。

その中の行事の1つに「成果発表」があり、医療・理療に関する外国語文献の内容検討(かつては「抄読会」と呼称)、医療・理療に関する和文献レビュー等を行っています。主に、臨床に有用な内容を対象としているため、「病態把握」や鑑別手法、治療法に関するものが相上り上がってきます。施設学生に対する授業科目においても、英語、ポリクリ等、これら外国語文献(主に英語文献)が題材にあがるが多々あります。

本文章は、これまで挙げた題材、これから題材になる予定の文献の書誌データを簡単なコメントとともに提示します。各原論文の内容検討は、本紀要次巻号から掲載していく予定です。

ベースになる内容は、全日本鍼灸学会東京地方会学術講習会で行われた「徒手検査を見

直す」というコーナーで報告したものです。当時、学術部長であった濱田が主に行っていました。原典にあたるという手法で、初めは30分以内の小規模な発表でしたが、段々尺が長くされて、興味のない会員から不評をいただきました。一方、教員である会員からは、単行本としてまとめてほしい等の要望があったのですが、お蔵入りにしようと考えていました。最近、前述の成果発表のテーマとして扱っている例が出始め、せっかくなので蔵出ししようと思に至りました。当時の形ではなくなるとは思いますが、EBM的観点等、新知見も入ってきていますので、かえっていいかなと思っています。

養成施設の臨床は、鑑別テストを駆使して病態把握する、という評判がかつてありました。鑑別テストや神経学的検査法を、視覚障害をもつ理療師が用いることができるように工夫したり、なるべく施術対象組織や施術部位の決定に用いることができるように改変されてきました。それらは主に内部の勉強会等で伝えられてきた内容です。可能な限り、そ

の内容も入れ込んで生きたいと思います。

鑑別テスト（あるいは徒手テスト）は、当然ですが、現在の手法が最も探し易く、次に原典が見つかり易くなっています。現在の手法は徐々に改善された結果になります。変法や増強法、ベリファイ等が、テストの信頼度を高めるため、後進の研究者や臨床家により操作の変更・付加されています。原典と現在の手法を比較して違いが分かるのですが、その間をたどらなければ、いつ誰が手を入れたのかは分かりません（論文の緒言や考察で、変遷の歴史が述べられていることがあります）。原典は、画像検査がまだ発展していない頃に発明されたものが多いので、論文発表当時の疾患概念、病態に関しては変化していることがあります。英語の用法が古かったり、とてもかたい表現であったりもします。あまり深く掘っていくと収拾が付かなくなることがあ

ります。なるべく、原典を元に検討していきます。なお、外国語翻訳にあたり、なるべく正確を期すため、養成施設の英語担当、臨床を行っている鍼灸師、教員にご助力いただき、原典探索、翻訳等多面にわたりアドバイス、執筆をいただいております。

現在、超音波エコー像を見ながら鍼刺入していくグループが出てきて、視覚的情報を基に治療する技術が進展しそうな雰囲気です。一方、触察データを主とする理療科診療においては、患者が自分の画像データを所持している現在でも、身体所見データによる評価は重要な位置を占めています。現場の先生方はその重要性をよくご存じで、強い関心を持っておられると思います。

先生方の臨床活動や教育活動に少しでもお役に立てばと思っています。

【取り扱う検査の原典 文献データ】（掲載雑誌名は略称）

I 上半身

1. 頸部

1) スパーリング（Spuring）テスト

Spuring RG and Scoville WB: Lateral rupture of the cervical intervertebral discs.

A common cause of shoulder and arm pain. Surg Gynecol Obstet 1944; 78: 350-358.

物議を醸す絵で有名。

2) ジャクソン（Jackson）テスト

Jackson R: The Cervical Syndrome. 3rd ed. 152-153, Charles C. Thomas. Springfield Illinois, 1966.

なぜか微笑ましい写真で有名。

2. 胸郭出口部

1) アレン（Allen）テスト

原典不明（仮説を提示します）。従来より、原典はAllen EV: Thromboangiitis obliterans: Methods of diagnosis of chronic occlusive arterial lesions distal to the wrist with illustrative cases. Am J Med Sci 1929; 178: 237-244. とされたが、この論文中には、胸郭出口症候群の鑑別方法の記載はない。

2) イートン（Eaton）テスト

Eaton LM: Neurologic causes of pain in the upper extremities with particular reference to symptoms of protruded intervertebral disk in the cervical region and mechanical compression of the brachial plexus. *Surg Clin N Amer* 1946; 26: 810-820.

3) アドソン (Adson) テスト

Adson AW: Surgical treatment for symptoms produced by cervical ribs and the scalenus anticus muscle. *Surg Gynecol Obstet* 1947; 85: 687-700.

4) エデン (Eden) テスト

Eden KC: The vascular complications of cervical ribs and first thoracic rib abnormalities. *Brit J Surg* 1939; 27: 111-139.

5) ライト (Wright) テスト

Wright IS: The neurovascular syndrome produced by hyperabduction of the arms. *Am Heart J* 1945; 29: 1-19.

6) モーリー (Morley) テスト

Morley J: Brachial pressure neuritis due to a normal first thoracic rib: its diagnosis and treatment by excision of rib. *Clinical Journal* 1913; XLII(29): 461-464.

7) ルース (Roos) テスト

a) Roos DB: Thoracic Outlet Syndrome. *Arch Surg* 1966; 93: 71-74.

P.72のFig.2に本テストの原形のような手法がみられる。

b) Roos DB: Congenital anomalies associated with thoracic outlet syndrome: anatomy, symptoms, diagnosis, and treatment. *Am J Surg* 1976; 132: 771-778.

「Allen test」という語がp.775にみられるが、文献データは記載されていない。

3. 肩部

1) ペインフルアークサイン (painful arc sign)

Kessel L, Watson M: The Painful Arc Syndrome. *Clinical Classification as a Guide to Management. J Bone Joint Surg* 1977; 59B(2): 166-172.

2) ニア (Neer) のインピンジテスト

a) Neer C: Anterior Acromioplasty for the Chronic Impingement Syndrome in the Shoulder. A preliminary report. *J Bone Joint Surg* 1972; 54A(1): 41-50.

b) Neer C: Impingement Lesions. *Clinical Orthopaedics and related research.* 1983; 173: 70-77.

3) ダウバーン (Dawbarn) 徴候

Dawbarn RHM: Subdeltoid bursitis. A pathognomic sign for its recognition. *Boston Med Surg J* 1906; 154: 691.

22行の短報、今なら編集者へのレターになる程度のもの。

4) ヤーガソン (Yergson) テスト

Yargason RM: Supination sign. *J Bone Joint Surg* 1931; 13: 160.

5) スピード (Speed) テスト

本人自身の記載はない。下記a)b)の論文中に引用がある。

a) Gilcreest EL, Albi P: Unusual lesions of muscles and tendons of the shoulder girdles and

upper arm. Surg Gynecol Obstet 1939; 68: 903-917.

b) Crenshaw AH, Kilgore WE: Surgical treatment of bicipital tenosynovitis. J Bone Joint Surg 1966; 48-A: 1496-1502.

4. 上肢部（肘関節、手関節）

1) アイヒホッフ（Eichhoff）テスト

Eichhoff E. Der Pathogenese der Tendovaginitis stenisans. Bruns 'Beitrage z. klin. Chir., CXXXIX, 746-755, 1927.

ドイツ語で記載されている。従来、フィンケルシュタインテストと呼ばれていた。実際は別物。フィンケルシュタインの論文中で紹介されていたEichhoffの手技（bibliography 21.と記載されているにもかかわらず）がフィンケルシュタインの手技として誤認された。

2) フィンケルシュタイン（Finkelstein）テスト

Finkelstein H: Stenosing tenovaginitis at the radial styroid process. J Bone Joint Surg 1930; 12: 509-540.

3) ファーレン（Phalen）テスト

Phalen GS: The carpal tunnel syndrome. Am Acad Orthop Surgeons 1957; 14: 142-148.

4) 肘屈曲テスト（Wrist flexion test）

Buehier MJ, Thayer DT: The elbow flexion Test. Clin Orthop Relat Res 1988; 233: 213-216.

肘部管症候群の鑑別テストで、手根管症候群のものと似ている。

5) トムゼン（Thomsen）テスト

Thomsen W: Ueber den Tennisarm (Epicondylitis humeri) usw. Munchener Medizinische Wochenschrift 1935; 45: 1804-1807.

ドイツ語で記載されている。

II 下半身

5. 腰椎部

1) ケンプ（Kemp）テスト

Kemp A: Een nieuw symptom bijprolaps van de tussenwervelschijf. Nederl Tijdschr Geneesk 1950; 94: 1750-1755.

ドイツ語のようにみえるが、ネーデルラント語（オランダ語）で記載されている。

2) ラセーグ（Lasègue）テスト、SLRテスト

Forst JJ: Contribution a l'étude Clinique de la Sciatique. Thèse pour le Doctorat en Médecine, Paris; Faculté de Médecine de Paris, 1881; 33.

フランス語で記載されている。

6. 骨盤部・仙骨部

1) ヨーマン（Yoeman）テスト

Yoeman W: The Relation of Arthritis of Sacro-Iliac Joint to Sciatica, with an analysis of 100 cases. Lancet 1928; 2: 1119-1123.

初めて梨状筋と坐骨神経痛との関係を記述したのは、ヨーマン（Piriformis syndrome in

relation. J Surg 1947; 73: 355.) で、「外傷性梨状筋症候群」として、独立した疾患概念とした。

2) ペイス (Pace) テスト (別称: Pace's maneuver)

Pace JB, Nagel D: Piriformis syndrome. West J Med 1976; 124: 435.

3) フライバーグ (Freiberg) サイン(別称: FAIRテスト)

Freiberg AH: Sciatic pain and its relief by operations on muscle and fascia. Arch Surg 1937; 34: 337-350.

論文中にラセーグ徴候への言及がある。また、「Anatomic relationship of the piriformis muscle」という一節がある。

4) ゲンスレン (Gaenslen) テスト

Gaenslen FJ: Sacro-iliac arthrodesis. Indications, Author's technic and end-Results. JAMA 1927; 89(24): 2031-2035.

詳細な図が掲載されている。

5) ニュートン (Newton) テスト

Newton DRL: Discussion on the clinical and radiological aspects of sacro-iliac disease. Proc Roy Soc Med 1957; 50: 850-853.

7. 股関節部

1) エリー (Ely) テスト

Ely LW: Backache; lumbago: pain in lower part of back. Arch Surg 1933; 27: 189-202.

2) パトリック (Patrick) テスト

Patrick HT: Brachial neuritis and sciatica. JAMA 1917; 69: 2176-9.

8. 膝部

1) マクマレー (McMurray) テスト

McMurray TP: The semilunar cartilages. Br J of Surgery 1942; 29: 407-414.

2) アプレー (Apley) テスト

Apley AG: The diagnosis of meniscus injuries. J Bone Joint Surg 1947; 29: 78-84.

9. 足部

1) 足根管症候群の疾患概念

a) Keck C: The tarsal-tunnel syndrome. J Bone Joint Surg 1962; 44-A: 180-182, 1962.

b) Lam SJS: A Tarsal tunnel syndrome. Lancet 1962; 2: 1354-1355.

2) 足底腱膜炎の疾患概念

Wood W: On Painful Subcutaneous Tubercle. Edinb Med Surg J 1812; 8(31): 283-291.